

2009年8月25日(火)
第157号



年率20%を目指す！ 鈴木一之の 「ビジネス・サイクル投資法」



目次(火曜版)

注目材料 分析

半導体市況の騰勢続く

ビジネス・サイクル投資法

化学セクターを「短期・買い」とする

シクリカル銘柄 厳選

半導体部材メーカーをさらに追跡

シクリカル銘柄 フォロー

注目トピックス

7月 全国スーパー売上高 (日本チェーンストア協会)



制作:鈴木 一之
編集:クラブフィスコ

注目材料 分析

半導体市況の騰勢続く

半導体市況の上昇が止まらない。8月に入って週末を除く16日間のうち、半導体市況が下落したのはここまでわずか3日間にとどまっている。7月も24日間のうち値下がりしたのは4日間だけだった。「ウィンドウズ7」発売前の買い控えは最小限にとどまり、むしろ新たなPC需要が足元でも湧き上がっていることが実感として感じられる状況である。

これは現行の「ウィンドウズ ビスタ」搭載機種が、ほぼもれなく新OS搭載機種の発売後に「ウィンドウズ7」へのアップグレードサービスを標準仕様として付けていることと無関係ではなさそうだ。これまでもPCメーカーはOSの移行期にあたって次期OSへのアップグレードサービスをつけていたが、いずれもユーザーはソフトウェア代として数万円程度の追加支出が求められた。

しかし今回、マイクロソフトはわずか数千円程度の追加負担で「ウィンドウズ7」へのアップグレードを認めている。「ウィンドウズ ビスタ」の失敗やゲームの追い上げを意識しているのかもしれない。「ウィンドウズ7」は「ビスタ」よりも動作が軽いことが売り物とされており、現行機種のハードウェアでもメモリの追加などは不要と見られる。これによってユーザーの買い控えも最小限に食い止められており、世界的な景気の回復とも相まってPC販売は順調に回復しているものとの仮定が成り立つ。

DRAM価格指数 2008年8月～2009年8月



ビジネス・サイクル投資法

化学セクターを「短期・買い」とする

化学セクターの投資判断を「短期・買い」とする。ここで述べる「化学」は石油化学セクターではなく、半導体部材を供給する化学メーカーを視野に入れている。買いと判断した理由はほかでもない、半導体の需給ひっ迫感が日増しに強まり、半導体市況の高騰が続いているためである。

石油化学よりも、半導体部材メーカーとしての位置づけ

日付	銘柄(コード)	掲載日終値	投資スタンス	判断
8月25日	日本ゼオン (4205)	452円	短期	買い
8月25日	東京応化工業 (4186)	2,225円	短期	買い

半導体市況は6月下旬以降、一貫して上昇基調にある。ドイツのキマンダ破たん以降、韓国や日本メーカーの在庫調整による投げ売りがほぼ一巡し、そこに中国、米国からわずかな需要増が押し寄せて現在の価格上昇につながっていると見られる。DRAMスポット価格はこの1カ月で4割の上昇。大口価格も上昇を続けており、業者間の見通しとしては、米国向けの需要だけで9月いっぱいは大口径価格の上昇が続くと予想されている。

これが来年以降の本格的、持続的な価格上昇につながるの楽観的な見方は今のところないようだ。むしろ現在の一時的な需給ひっ迫が解消した後には再び軟化傾向をたどるとの慎重な見方の方が根強い。しかし半導体業界は2006年に最後の市況上昇を経験した後、2007年、2008年と丸2年以上かけてこれまでにない価格暴落を目の当たりにしてきた。仮に4年のシリコンサイクルの周期性がまだ存続しているのなら、ここからは上昇期の2年間を迎えるはずだ。そこまでの息の長い上昇を想定しなくとも、足元の価格上昇はとらえておくべきだと考えている。

シクリカル銘柄 厳選

半導体部材メーカーをさらに追跡

日本ゼオン（4205）



(C) FISCO / FISCO PLACE

合成ゴムの大手。半導体部材のみならず、自動車用タイヤ、部品、船舶、住宅・建設資材・印刷など幅広く手がける。半導体向けではエッチングガス、フォトマスク用材料、フォトレジスト用現像液などを供給。また液晶パネル向けの導光板、拡散板や、リチウムイオン電池用のシール材なども製品化。ハイテク部材メーカーの地位を確固とする。

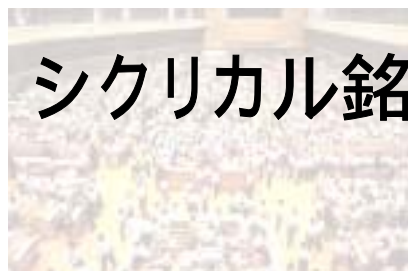
東京応化工業（4186）



(C) FISCO / FISCO PLACE

半導体用フォトレジストの世界トップメーカー。すでに1960年代初頭にはこの分野に進出し、半導体のみならず液晶パネル、PDPでもフォトレジストを供給。さらには半導体、液晶、有機ELなど微細加工の製造装置、パッケージ分野にも進出している。株価はすでにボトムから約2倍化しており、市場の熱気の冷めたところを買うのがよい。

シクリカル銘柄 フォロー



掲載日	銘柄(コード)	掲載日翌始値	スタンス	現在値	ロスカット値
7月3日	トーメンデバイス(2737)	1,220	買	1,617	1,037
7月24日	東京エレクトロン(8035)	4,670	買	5,140	3,970
7月24日	アドバンテスト(6857)	1,936	買	2,360	1,646
8月7日	ローム(6963)	6,980	買	6,290	5,933
8月7日	村田製作所(6981)	4,650	買	4,500	3,953
8月14日	郵船航空サービス(9370)	1,261	買	1,349	1,072
8月14日	近鉄エクスプレス(9375)	2,300	買	2,245	1,955

現在値は配信日終値を記載

スタンスには売買推奨の区別を記載

先週金曜日の時点で、石油化学セクターを「手仕舞い・売り」に変更すると同時に、それに合わせて高炉、電炉メーカーも手仕舞いとした。

その結果、現在の推奨銘柄はほぼ半導体及び電子部品セクターに一本化された格好。

今回、削除された銘柄はない。新たに半導体部材メーカーの推奨を加えることとする。

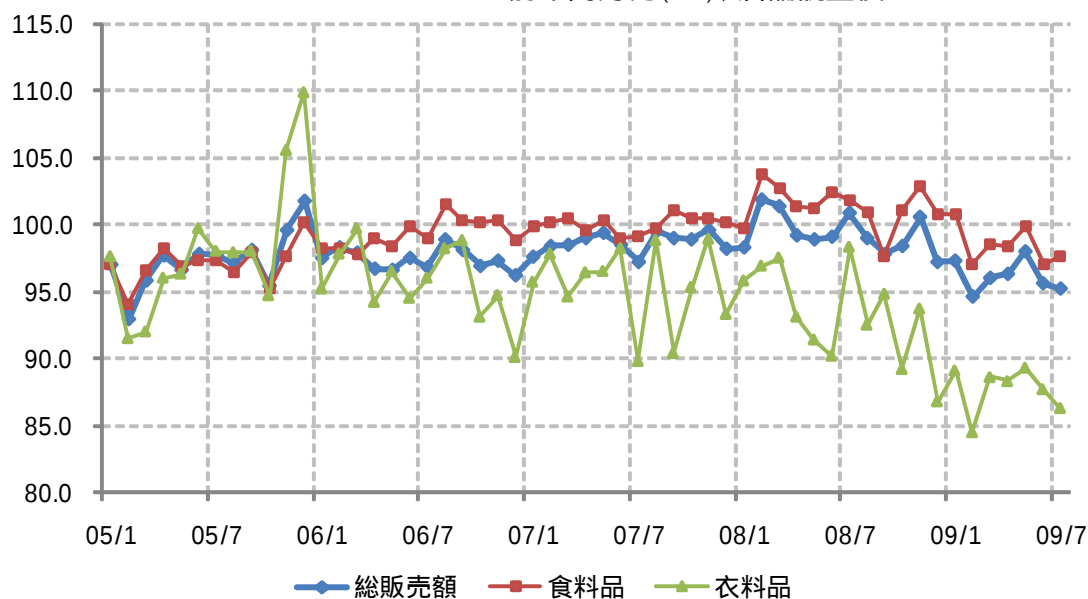
注目トピックス

7月 全国スーパー売上高（日本チェーンストア協会）

8月24日に日本チェーンストア協会より、7月の全国スーパー売上高が発表された。それによれば、7月の全国スーパー売上高は前年同月比-4.8%減少の1兆858億円となった。前年割れは8カ月連続。7月単月でみると1999年の-5.1%減少に次ぐ過去2番目の下落幅。長雨など天候不順の影響が色濃く出て、夏物商品が不振だった。

食料品は-2.3%と6カ月連続のマイナス。牛肉や寿司など高単価商品や、冷し中華などの夏物食品が伸び悩んだ一方、特売品や割安なPB商品など低価格品は好調だった。衣料品は-13.7%と43カ月連続のマイナス。7月としては過去最大の下げ幅だった。Tシャツや水着など夏物衣料の不調が大きく影響した。

全国スーパー売上高（7月、日本チェーンストア協会）
前年同月比（%）、店舗調整後



ディスクレーマー

【重要事項 株式会社フィスコブレイス】

■ 株式会社フィスコブレイス（以下「フィスコブレイス」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪証券取引所・ジャスダック証券取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。

■ “JASDAQ INDEX”の指数値および商標は、株式会社ジャスダック証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

■ 掲載される情報はフィスコブレイスが信頼できると判断した情報源をもとにフィスコブレイスが作成・表示したものです。その内容および情報の正確性、完全性、適時性について、フィスコブレイスは保証を行っており、また、いかなる責任を持つものでもありません。

■ 本資料に記載された内容は、資料作成時点において作成されたものであり、予告無く変更する場合があります。

■ 本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコブレイスに帰属し、事前にフィスコブレイスへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

■ フィスコブレイスが提供する投資情報は、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

■ 本資料に掲載される株式、投資信託、債券、為替および商品等金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。

■ 本資料は、本資料により投資された資金がその価値を維持または増大することを保証するものではなく、本資料に基づいて投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、フィスコブレイスは、理由のいかんを問わず、責任を負いません。

■ フィスコブレイスおよび関連会社とその取締役、役員、従業員は、本資料に掲載されている金融商品について保有している場合があります。

■ 投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。